
しゃぼん玉

雷都

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しゃぼん玉

【Nコード】

N6392Z

【作者名】

雷都

【あらすじ】

他人の感情が「しゃぼん玉」として見える少女の話です。

私には、小さい頃からしゃぼん玉が見えた。誰かが飛ばしたわけでもないのに、見渡すかぎり、儚げにふわふわと浮いていた。薄い膜に七色の光を反射させながら、迷子になった子供のように漂っていたのだ。

寂しそうに見えるのに、しゃぼん玉たちは決して触れ合わず、それぞれが一定の距離を保っていた。

幼少期の私は、他人が見えないものが見えるというただそれだけの理由で、同年代の子たちからは嫌われ、大人からは気味悪がられた。私は腹いせのため、手の届く範囲のしゃぼん玉を叩き割った。

その度に私の手は、閉じ込められていた心の一部を代弁するような、不思議な感覚をおぼえた。ときに笑い、ときに拗ね、ときに無気力になった。まるで手のひらが、私とはまた違う自我を得たみたいで、いつしか私のほうが手のひらに乗っ取られているような感覚すらしはじめていた。

もっとも、幼い私には大した考察もできず、ただ割られる前のしゃぼん玉が悪あがきをしているのだと思っていた。

しゃぼん玉が、誰かの感情だということに気づいたのは、小学生になってからだだった。幼心に尊敬とはまた違う感情を抱いていた先生の周りを漂うしゃぼん玉が欲しくて、私はそつと引き寄せた。とても優しく触れたはずだったのだけれど、しゃぼん玉は私の手のひらで弾けた。

それは、愛玩していた犬が死んだときや、安心を求めて接触した人間から冷たくあしらわれたときの感情に似ていた。

慟哭がはじまる瞬間だった。

私の手のひらは、激しく泣き出した。私は必死になだめたけれど、手のひらはなかなか泣き止んでくれなかった。

右手をにぎりしめ、左手で包みこみ、胸に強くあてつつける私を

みて、先生は心配そうに言った。

「大丈夫か？」

私は平気だけれど、私の右手が泣き止まないの。そう、伝えたかったのだけれど、もちろんそれを適切に訴えることはできなかった。

気がつくとき、私は右手と同じように泣いていた。

その時から。変化があった。

涙もろい熱血教師で評判だった先生が、泣かなくなったのだ。周りの評価は、「落ち着いた」とか、「クールになった」とか、好意的なものが多かったのだけれど、私は涙を忘れた先生に少し物足りなさを感じていた。

そして気づいたのだ。先生が泣かなくなったのは、私がしゃぼん玉を割ってしまったからだということに。

教室中を漂うしゃぼん玉が、ごくりと唾液を飲みこんだ私を一斉に見つめた気がした。

私は、ぞっとした。閉じ込めきれなかった誰かの感情だとは知らずに、届く範囲のしゃぼん玉を割りつづけた幼少期を、思い出したからだ。

私の右手は、たくさんの感情を奪ってしまった。それは幸福になる可能性を奪ってしまったことと、代わりのないことだろう。

大きくなるにつれ、他人の感情を奪うことへの恐れが増していった。

次第に私は、外出を拒むようになった。

これ以上しゃぼん玉を割りなくなかった。喜怒哀楽では表現しきれないさまざまな感情を覚えた右手は、いまにも発狂しそうだった。

今日も私は部屋に閉じこもり、うずくまっている。爪の先から泡のように噴きだしてくるしゃぼん玉が、部屋をしきつめ、居心地が

悪そうに震えている。私は空間を求めて、わずかに身体を移動させる。

いままで出会ってきた人たちの、声の残響を聞き、表情の残像を見る。懐かしくもあり、決して嫌な思い出ばかりではないのだけれど、私はすでに、多すぎる感情に囲まれることよりも、孤独を選ん でしまったのだ。

部屋の隅で膝を抱える私の右手は、すべての感情を吐き出すことができず、まだかすかに慟哭のはじまる予感を残していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6392z/>

しゃぼん玉

2011年12月21日15時47分発行